兵庫県観光&撮影地の旅

1年A組　有賀　洋登

今回ネタがあまり見つからなかったので、ゴールデンウィーク期間を使い、両親の同行のもと兵庫県のいろいろなところに行ってきました。

1日目

自宅から車で土浦駅へ向かい、土浦駅8:06発特急ひたち58号品川行きに乗車。東京駅でのぞみ345号新大阪行きに乗り換え、東海道新幹線をつかって新大阪へ。新大阪で接続待ちのひかり705号岡山行きに乗換えてまずは西明石を目指します。新大阪を出てすぐに見える宮原総合運転所では数多くの機関車を見ることができ、とても感動しました。



▶EF65 1124　かつて「トワイライトエクスプレス」の牽引機であった電気機関車。



▶EF65 1132（国鉄EF65形電気機関車）入れ替え作業でしょうか。前方に作業員の方が立っていました。

西明石駅に到着後、レンタカーを借りて明石海峡大橋に向かいます。明石海峡大橋へ向かう道中、標準時子午線を通過しました。いよいよ明石海峡大橋を渡り淡路島方面へ。橋を吊るすために垂らされた、ハンガーロープと呼ばれるケーブルがまるで巨大なカーテンのようで圧巻でした。以前、しまなみ海道を渡った事があるので、本州四国連絡橋を渡るのはこれで2回目なのですが、しまなみ海道とはまた違った迫力がありました。橋から見える海景色もまた素晴らしかったです。





明石海峡大橋を渡り終え淡路島に上陸。近くにある下りのサービスエリアに車を停めました。サービスエリアには、神戸・大阪・紀伊半島を一望できる広場があり、この時は少し曇っていて少し見えにくかったですが、神戸空港、関西国際空港、港を一度に見ることができました。なので離発着していく飛行機や貨物船を同時に数多く見ることができ、そこにいるだけでもかなり楽しむ事ができました。

さらに、サービスエリアには大観覧車があり、広大な景色を高所から見渡す事ができました。この日は風が強くゴンドラがかなり揺れたため、少しビビりました。



▶写真は、サービスエリアの広場から撮った明石海峡大橋の全体像です。広場には「明石海峡大橋」と書かれた石碑が置いてあり、フォトスポットとなっていました。



▶写真は、少し見えにくいですが画面中央部に神戸空港へ着陸しようとする旅客機が写っています。かなり距離がありましたが、しっかりと確認する事ができます。



▶左の写真は、おそらく貨物船を写したもの、右の写真はスカイマークの旅客機を写したものです。旅客機はスカイマークだけでなくANAやJALなど幅広い種類の飛行機を見る事ができました。

少し休憩した後、サービスエリアを出発し淡路島の沿岸部をしばらく走行してみました。途中「野島断層」と書かれた看板を発見したので寄ってみることにしました。しかし行き当たりばったりなところもあり、到着した頃には野島断層を保存している野島断層保存館はすでに閉館していました。
残念ながら今回の旅では野島断層を間近でみる事はできませんでしたが、いつかまた来れる機会があれば行ってみたいです。



▶左の写真は阪神・淡路大震災によってできた「野島断層」が、当時のそのままの状態で保存されている野島断層保存館の写真です。右の写真は野島断層保存館の近くにある記念公園の写真です。

日も暮れてきたので、今度は内陸部を通って上りのサービスエリアに戻ってきました。この時は晴れ間があったので広場から神戸や大阪の遠くの方までみる事ができました。





▶左の写真は、現在解体が進んでいる万博の会場であった「大屋根リング」を写したものです。小さいですが、黒枠の中に写っています。
右の写真には、以前まで日本一高いビルであった、高さ300mを誇る「あべのハルカス」が写っています。画面右側の一際高いビルが「あべのハルカス」です。

広場には他にも、日本神話に登場する「イザナギ」「イザナミ」が描かれた石碑があり、石碑には「日本発祥の地」と書いてありました。調べたところ、「イザナギ」と「イザナミ」が最初に生んだとされる特別な島が、この淡路島だったそうです。旅には学びがあるということをここで実感しました。



▶右の写真が、広場にあった石碑です。石碑の横には薄く日本列島が描かれていました。夜になり暗くなると、この日本列島が光るそうです。

姫路の方のホテルへ移動するため、サービスエリアを出発。
再び明石海峡大橋を渡りました。
橋の上からは夕日がよく見え、夕日の光で明石海峡大橋がとても映えていて綺麗でした。



1時間ほどかけて姫路に到着。ホテルが駅近だったので、通りからは姫路城が見えました。ライトアップされていて、道路の先にある姫路城はとても迫力があり、異彩な存在感を放っていました。
これにて1日目終了。





▶写真は、道路から見た姫路城です。姫路城の外壁が白いので、ライトアップされているとかなり目立ちます。



▶写真は、姫路駅の近くで見かけたバスです。バスにはあまり詳しくないので、どの会社のバスなのかはわかりませんでした

2日目
朝8:00ごろ姫路のホテルを出発。これから赤穂市にある有名な撮影地「大津トンネル」に向かいます。
姫路西ICから山陽自動車道を通り、40分ほどで最寄りの赤穂ICに到着。そこから10分ほど移動し、撮影地の「大津トンネル」に到着。ここでは主に山陽新幹線を撮影する事ができます。ここには初めてきたのですが、ここの新幹線のカーブが好きです。ゴールデンウィーク真っ最中ということもあり、人が多かったです。



●一本目　ひかりレールスター（700系E1）



◉二本目　ハローキティ新幹線（500系V2）5月17日でラストランを迎えるので、最後に見れてよかったです。



●三本目　N700S J55　　この編成番号についている「J」は、この編成がJR東海が所有しているものであることを示しています。また、数は少ないですがJR西日本が所有しているものには「H」とつきます。東海と西日本の区別の仕方は他にもあり、一番わかりやすいのは、新幹線が駅を発車した際に車内で流れる車内チャイムです。東海では「会いに行こう」という曲が流れるのに対し、西日本は「いい日旅立ち」という曲が流れます。個人的に「いい日旅立ち」を聞くとちょっと嬉しくなります。N700系も同様です。



●四本目　N700系（8両）S13　N700系よりも車体の色が微妙に青色をしているのが特徴的です。この車両は主に西日本で見られます。



●五本目　N700系F2



●六本目　N700S H7　　この編成は今年の3月から営業を開始したらしく、かなり新しい編成でした。

11時ごろ「大津トンネル」を出発し、南の方にある播州赤穂駅に向かいます。西日本にあまり訪れないのであまり詳しくはありませんが、この播州赤穂駅は大阪の駅でよく見かける新快速の終点の駅らしいです。播州赤穂駅に着きました。駅に着いてから知ったのですが、ここは「アース製薬」の発祥の地だそうです。ここで昼食をとり、姫路の方へ戻ります。





▶写真は、播州赤穂の駅中にあったラーメン屋のラーメンの写真です。ここで醤油ラーメンをいただきました。

姫路に到着し、姫路城前に少し寄りました。夜に見た時とは違った迫力があり、何度見ても華やかでした。城の周りの堀では学習船が出ているらしく、木製の船が城の周りをぐるぐるしているのが見えました。いつか乗ってみたいです。





▶左は堀を通っている学習船の様子です。乗客はみんな昔ながらの笠を被っていました。右は姫路城の写真です。中学生の頃に一度訪れましたが、変わらず華やかでした。まだ中には入った事がないので、いつかまた行って見てみたいです。

姫路城を後にし、西明石駅に戻ってきました。ここでレンタカーを返却し、来た時と同じように新幹線を使って帰宅しようと考えていましたが、ゴールデンウィーク真っ最中なのでもちろん席は全て満席でした。そこで「在来線乗ってないな」という考えになり、西明石からは大阪方面へ在来線で行くことにしました。西明石駅から新快速に乗車し、大阪方面に向かいます。走行中、車窓から天文科学館や日本の標準時時計が見えました。



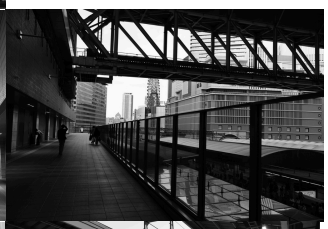




▶左は明石市立天文科学館と時計台の写真です。
日本で一番正確な時計台かもしれません。

大阪駅で一度降車しました。ここで某Youtuberで有名になった大阪駅の広場を訪れました。





▶某Youtuberの広場です。大阪駅の中でもかなり空いています。大阪駅の大きな屋根や駅に入線してくる鉄道をゆっくり見れるスポットです。

訪れた後すぐにホームへ戻り、新大阪へ向かおうとしましたが新大阪は混んでいると考え、京都に向かうことにしました。





京都駅に到着し、東海道新幹線に乗り換えます。座れる座席がないため、今回は立ち席での移動となりました。





名古屋駅に到着し、ここで降車します。幸いにも名古屋始発のこだまは席が空いていたため、こだまに乗り換えます。名古屋から東京駅間のこだまを乗り通しました。

無事東京駅に到着しました。こだまなのでかなり時間がかかりました。東京からは特急ときわ83号土浦行きに乗り換えて帰ります。とても疲れていたので、日暮里あたりから記憶がありません。



土浦駅に到着しました。土浦駅から車に乗って帰宅し、今回の旅は終了しました。

旅の感想
あまり西日本に行くことが多くないので、知らない場所が多くかなり楽しい旅になったと思います。また、西日本の交通の知識があまりないので、調べる機会を増やしていきたいと思いました。今回の旅は行き当たりばったりなところが多かったので、もっと旅を楽しめるように、今度はしっかり計画を立ててからいきたいなと思いました。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。